

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年10月10日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672000058
法人名	社会福祉法人 尚徳会
事業所名	グループホーム遊花里(花ごよみユニット)
所在地	鹿児島県指宿市山川岡児ヶ水1211番地 (電話) 0993-35-0220
自己評価作成日	令和5年10月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年11月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・社会福祉法人が経営する特別養護老人ホームを母体とした併設施設であり、法人嘱託医・看護師による医療面の連携・協力体制や同一敷地内の併設事業所である、デイサービスセンターや在宅介護支援センター等との連携・応援体制も整っています。
- ・入所者と一緒に農園で季節の野菜を栽培し、収穫した野菜を使って昔なつかしい料理を楽しんでいます。
- ・日々の生活に楽しみや喜びを感じられるように、入所者一人ひとりの生活歴や得意なことを活かした役割、趣味活動、レクリエーション等を支援しています。
- ・職員一人ひとりが入所者の「その人らしい生活」とは何かということを常に考えながら、個々のペースに合わせて関わりを持つよう心掛けています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	全職員で意見を出し合い、法人理念を作った。理念は家族も確認できるよう玄関に掲示している。またスタッフルームにも提示し常に職員が意識するようにしている。認知症介護については、グループホーム連絡協議会などでの研修を職員間で共有して、人権を尊重した基本的ケアの実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響で地域と直接的なつきあいはできていないが、県道に続く道路の土手の草刈りを行っている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	法人が主体となり、ご家族や地域住民を対象とした勉強会や地域交流文化講演活動を開催し、地域とのつながりを強めている。今年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点からできていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、ホームの生活状況やひやり・はっと、外部評価の結果等の報告を行い、委員からの意見をサービスの向上に役立てている。前年度に引き続き今年度も、新型コロナウイルス感染防止の観点から、4月の運営推進会議より書面での会議を行っている。</p>		
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議や市のグループホーム連絡協議会を通して、情報を提供して頂いている。また運営上の疑問点等がある時には、その都度、市の担当者へ相談している。</p>		
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束適正化検討委員会を設置し、3ヶ月に1回会議を開催し、ケアの内容を確認している。また年2回内部研修を行い、身体拘束ゼロへの理解を持ち、拘束をしないケアを実践している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会の年間計画に虐待の防止についてのテーマを設け話し合い、虐待のないより良いケアを実践している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>勉強会の年間計画に権利擁護に関するテーマを設け、制度の理解に努めている。実際、利用者のご家族から相談を受けた際は、厚生労働省のパンフレットを活用し説明を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入所契約時は、入所者や家族等に不明な点がないか確認しながら、利用契約書・重要事項説明書の説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議の中で入所者や家族から意見や要望を聞き、運営に反映させている。また家族が面会に来た際や電話をした際は積極的に関わりを持って情報交換し、意見をいっていただけるよう話しやすい関係性作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>・毎月、ユニットミーティングを開催して意見を交換し、会議録を提出、報告している。</p> <p>・毎月、管理職会議を開催し、各事業所の管理者から現場の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>・人事考課で自己評価及び管理職評価システムを採用している。</p> <p>・職員の資格取得や自己研鑽のための各種研修への参加を推進し、資格取得さい際には適正に評価し給与に反映させるなど、向上心を持って働けるようにしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・研修の案内などを配布し、職員の資格取得や自己研鑽のための各種研修への参加を推進している。研修に参加した際には研修費の支給、勤務扱いにするなどの取り組みを行っている。</p> <p>・年間の内部研修計画書を作成し、それに沿って実施している。また外部研修後は資料をミーティングの中で活用し、参加できなかった職員については資料を確認し、皆で共有できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県・地区のグループホーム連絡協議会に入会し、他施設の職員と意見交換や交流する場を設け、また研修会への参加等、サービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り入所前に、ご本人様と面会を行う、また、面会で確認できなかった事柄については居宅介護支援事業所や家族等に連絡して情報収集を積極的に行い、入所予定者が困っていることや不安に思っていること等の把握に努め、安心してサービス利用を開始できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所予定者の家族と面会し、これまでの経緯を聞き、家族の気持ちに寄り添いながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合は、法人全事業所の管理職会議の中で、他事業所の管理者と情報を共有して必要な支援を一緒に考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活で培ってきた知恵や経験を生かして、郷土料理や野菜の作り方等を教えて頂きながら、入所者と職員が暮らしを共にする関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>写真付きで個々の生活状況を載せた「ゆうかりメール」を定期的に家族に郵送している。また面会時や所用で電話連絡した時は本人の近況を伝えるとともに、家族の要望や意見を聞き、共に入所者を支えていく関係作りに努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの人に電話や手紙で交流ができるよう守秘義務に注意しながら関係継続に努めている。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員は入所者が孤立しないよう間に入り、挨拶や会話を補助し、気持ち良く支え合えるような支援に努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>同敷地内の他施設へ移られた利用者の所へ面会に行ったり、そのご家族から相談があった時には、情報提供や支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段から職員間で情報を共有し、個々の思いや意向の把握に努めている。意思の表出が難しい方については、家族からこれまでの生活歴や暮らしぶりを聞き、本人の思いを推察している。また毎月意見交換会を実施し、入所者の意向を聞く機会を設けている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家での過ごし方など、入所前に家族や居宅介護支援事業所等から聞き取りを行い、これまでの暮らしの把握に努めている。入所後は、関係を築いていく中で得た情報を職員全員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者の一日の過ごし方や生活リズムを把握して、自分でできること・サポートが必要なことを見極め、個々に合わせた支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人、家族の思いや意向を確認し、職員間で意見を出し合って介護計画を作成している。作成後は、家族に説明しサインをもらっている。 ・毎月の介護支援経過、3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、介護計画の見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所者の日々の様子や状態の変化、気づきなどをケースに入力し、ケアの内容や介護計画の見直しに活かしている。また継続的な事例や職員が各自で思ったことを表出しやすいよう申し送りノートを活用し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々状況に合わせ、受診の介助や入・退院の送迎等を支援している。また現在は新型コロナウイルス感染症の影響でできていないが、同一敷地内の特養やデイサービス等との交流・連携に努め、人間関係の広がりや楽しみごとを増やす機会を設けている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止の観点から、自粛しているが、中学生の介護体験や民生委員のボランティア等を受け入れ、入所者との交流を深めて、豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。 ・安全面については、毎月自主避難訓練を実施し、定期的に総合防災訓練を行い、火災の時の初期消火・避難誘導等について消防署の指導を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・週3回、嘱託医の往診がある。また、24時間体制で連絡ができるようにもなっており、緊急時の対応もできる体制を整えている。 ・本人、家族が要望される医療機関がある場合は、受診できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>通常と異なる様子が観られる時は速やかに連絡する等、事業所の看護師、または併設施設の看護職員と連携しながら健康管理を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際は介護サマリーを作成し、入所者が安心して治療を受けられるよう入院先へ情報提供を行っている。また入院先の看護師、MSWに連絡して、状態を聞く等、病状の把握に努め、得られた情報を嘱託医へ報告し、早期に退院できるよう連携を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に事業所の看取り介護に関する指針を説明し、事前確認書で、意向を確認している。重度化した時は、家族と話し合いを持ち、事業所で出来ることを再度、十分に説明するとともに、嘱託医へ相談して状態に応じた対応を行っている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行い、実践力を身に付けている。不明な点はその都度、看護師へ指導を仰ぎ理解するよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月実施している訓練では火災だけでなく、地震・津波・水害なども想定し行っている。</li> <li>・BCP(事業継続計画)を作成し、目に付きやすい場所に置き、職員がいつでも確認できるようにしている。</li> <li>・緊急連絡網を作成し、毎年6月に緊急取集を行い、災害が発生した時に速やかに対応できるようにしている。</li> <li>・地区の公民館と災害時緊急避難指定施設として使用できるように申し合わせができています。</li> </ul>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の声かけは他の利用者に聞こえないよう耳元で小さい声で行う、難聴の利用者にはジェスチャーで伝える。不穏状態になり、大きな声を出される時は速やかに他の利用者に聞こえない場所へ移動し傾聴する等、一人ひとりのプライバシー・自尊心を傷つけないよう配慮した声かけや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見交換会や日々の関わりの中で入所者の希望などを聞く機会を設けている。また日常生活のあらゆる場面で、自分で選択し決定できるような声かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務上で多忙な日がある場合、業務内容を見直し、他の曜日に振り分ける等、業務が利用者より優先しないよう話し合いを常に行っている。どのように過ごしたいか食事の後等、場面が切り替わる時に入所者の意向を確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床後の整髪、身だしなみはご自身でできるだけ行っていただくよう支援している。入浴の際は、可能な利用者は、本人がその時の気分に合わせて洋服選びができるよう支援している。また行事の際は、お化粧品やお気に入りの服に着替えていただく等おしゃれをして普段とは違う雰囲気を感じていただけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所者と一緒に食事の準備や片付け等を行っている。また家庭菜園で収穫した野菜を入所者と一緒に収穫、調理して、食卓に出している。</li> <li>・嗜好調査を行い、食の好みや満足度を把握し、食事の時間を楽しく過ごせるよう工夫している。</li> </ul>		
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理栄養士の指導の下、栄養管理している。</li> <li>・食事・水分チェック表を用いて、摂取量を把握している。状態に応じて声かけや介助を行い、また時間をずらしたり、好きな物を勧めたりして工夫している。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎食後に義歯の洗浄や歯磨きの声掛け、誘導を行い口腔ケアに努めている。</li> <li>・義歯の不整合や口腔内に異常が見られた時は、協力医療機関の歯科医に往診を依頼している。また、定期的に口腔ケアについての指導も受けている。</li> </ul>		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄チェック表を作り、一人ひとりの排泄パターンを把握している。また、入所者の排泄サインを見逃さないように気を付け、声掛け・トイレ誘導を行っている。自立については、基本的には見守りを行い、ズボンの上げ下ろしはできるが、パット交換できない利用者については、パット交換のみ介助を行う等、過剰な介助を心がけ、自立に向けた支援を行っている。</li> </ul>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘がちな利用者の水分摂取量を確保する為、好みの飲み物を準備して水分摂取を勧め、排便を促す為、リハビリ体操で昼間の活動を促しながら自然排便へ繋げている。また、それでも排泄が困難な状態がみられたら、速やかに看護師、嘱託医に報告、相談を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>入浴を楽しみにしている入所者が多く、一人ひとりの入浴習慣や好みの温度、使い慣れたシャンプー類に配慮しながら支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中の活動を通して生活のリズムを作り、安眠につながるよう支援している。</li> <li>・昼寝や就寝時間は一人ひとりの生活習慣に合わせている。また夜間の睡眠状況を眠りスキャンの導入により正確に把握できる体制を整えている。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋で薬の効能や副作用等を確認しており処方箋も目につきやすいところに置き、すぐに確認できるようにしている。少しでも症状に変化がみられる時は速やかに嘱託医、看護師へ報告し、往診や必要に応じて受診等ができる体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意なこと等を把握し、それを活かした役割(食事の盛り付け・洗濯ものたたみ等)や趣味活動(パズル・生け花等)、レクリエーションなどを支援している。また、その日の気分に合わせて嗜好品を楽しめるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルス感染症の影響で外出はできていないが、天気の良い日は散歩に出かけたり、庭に出て青空のもとで食事やお茶を楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者、家族との相談の上、それぞれの希望に応じて金銭管理の支援をしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族から荷物が届いた時は、お礼の電話を掛けたり、希望に応じて入所者自ら電話をしている。また利用者からハガキを出したいとの要望があれば、ハガキを購入してくるなどの支援をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールや廊下等には季節の花々や小物を飾り、四季を感じられるよう工夫している。また夜間は室内の照明が刺激にならないよう取り外しのできる室内灯を使用し、1人ひとりが安眠できるよう配慮している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールのソファがくつろぎの場になっており、気の合う利用者同士で思い思いに過ごしている。また独りになりたい時は、居室に案内する、玄関ホールにテーブルと椅子を置く等、独りで自由に過ごせるよう工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた物を持ち込んでいただけのことを、入所時にご家族に説明している。また家族の写真や、レクリエーションで作成した自分の作品などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>床はバリアフリーで、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置して、利用者一人ひとりの身体機能に合わせた動きができるようにしている。また居室やトイレの場所が分からぬ利用者については、入口の所に表札や貼り紙をして混乱しないよう支援している。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない